

国語科学習指導案

学 級： 1 年 3 組 29 人

場 所： 1 年 3 組 教室

指導者： 教諭 玉利 さおり

1 単元名 「図表を用いたレポートを書こう」

(教材 「読むこと」教材「食感のオノマトペ」, 「書くこと」教材「一枚レポートを書こう」)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は「一枚レポートを書こう」という「書く能力」の学習活動を、効果的に展開するために「食感のオノマトペ」という説明的文章の「読む能力」と合わせ、一つの単元として設定した。

「一枚レポートを書こう」は自分の興味や関心のあるもの(こと)について調べ、その結果を的確に分かりやすくまとめる学習である。その際、集めた材料を分類・整理して文章の構成を考え、根拠を明確にして文章を書くということを学習する教材である。一方、「食感のオノマトペ」は、食感を表す日本語のオノマトペについて、筆者が実際に行った研究結果の具体的なデータを示しつつ記述されている。グラフや文中の記述内容を通して資料や調査結果を的確に読み取り、そこから筆者がどのような考え方を導き出しているのかを読み取る教材である。

食感に関するオノマトペについて自ら調べ、情報を整理してまとめ、最後にその結果について自分の考えを書いている文章が、文章形態は異なるもののレポートの文章と共通している部分が多くあることに着目した。最終的には自分でテーマを決めてレポートを書くという目標を設定し、レポートを書く際に必要な「テーマと視点の設定」「材料の収集と整理」「構成」「根拠を明確にした記述」「文章表現」「図表の活用」等を「食感のオノマトペ」の学習でも意図的に取り上げながら学習させる。説明的な文章を学習しながらも、その学習は「レポートを書く」という学習につながることを常に意識させることで学習意欲を高め、書く能力を身につけさせたいと考え、本単元を設定した。

(2) 生徒観

中学1年生は小学6年生の「書くこと」で、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり」するための学習をしている。しかし、「書くこと」については積極的でない生徒も多く見られる。諸検査の結果でも「書くこと」の項目は全国比を下回っている。本学級には、1学期の「書くこと」の学習を通して次のような実態が見られた。

- ・ 授業には積極的に取り組むが、文章を書くという学習に対しては苦手意識をもつ生徒が多い。
- ・ 指示に従ってすぐに書き始められる生徒もいるが、何からどう書いていいかわからず、なかなか書けない生徒もいる。

このような実態から、指導に当たっては、まず書くことに対する意欲づけが大切だと考えた。書き方を学ぶために読むという学習を設定し、説明的文章を読みながら自分の書くレポートをイメージさせ、書くことに自信を持って向きあえるようにさせたい。

(3) 指導観

本単元は、材料を整理して段落の役割を考えて構成し、事実に対して自分の考えを根拠を明確にして書く能力を身につけさせるために、図表などを用いた説明の文章を書く言語活動を設定した。学習指導要領において、説明の文章については「書くこと」と「読むこと」で関連させて指導することが効果的であるとしている。書き手の伝えたい内容を的確に読み取らせるために、図表が文章の中心的な部分、付加的な部分のどの部分と関連しているかを確認させる等の学習が、実際に図表を用いたレポートを書く学習に生かされると考える。文中での図表の効果を考えさせることによって効果的な使い方についても学習させたい。また、根拠を明確にして自分の考えを書く重要性を学習させるために、

「食感のオノマトペ」では調査結果のグラフを読み取り，その根拠をふまえて意見や考えを述べさせたい。

本校研究の柱である判断基準については，「読むこと」教材と「書くこと」教材で「思考力・判断力・表現力」が最も発揮される時間において，それぞれ 1 時間ずつ設定し評価を行う。また，判断基準の設定による言語活動を充実させる指導の工夫として，まず単元全時間の学習課題を評価基準を意識しながら事前に設定し，単元の 1 時間目に生徒に提示する。それによって「読むこと」教材と「書くこと」教材のつながりや，最終的な到達点を生徒が意識して毎時間の学習に意欲的に臨むことができると考えた。発問についても特に判断基準を設定する時間においては，その効果が発揮できるよう判断基準に準じた発問を計画的に取り入れたい。

3 単元の指導目標

- 図表や筆者の調査結果を手がかりに，文章の事実と意見などを読み分けさせる。
- 説明的文章の学習を通して，わかりやすいレポートを書くための構成や図表の効果，叙述の仕方等について理解させる。
- 興味をもったことについて自分で情報を収集し，図表を用いて根拠を明確にしたレポートを書かせる。

4 単元の指導計画

(1) 評価基準

ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
① 文章と図表の関連とらえながら，説明の文章を読もうとしている。 ② 図表を用いた説明の効果を考えたり構成を工夫したりして，わかりやすい文章を書こうとしている。	① 図表を示して説明する部分を意識しながら構成を工夫している。 ② 説明の必要な理由や目的，説明するものの概要を明確にして書いている。	① 図表と，説明されている事実や考えの関係を整理し，内容をとらえている。 ② 文章と図表から必要な情報を得ている。 ③ 説明する文章の図表から事実を読み取り，それに対する自分の考えをもつことができる。	① 意味の分からない語句を辞書で調べ，文脈上の意味を考えている。 ② 図表を説明するとき指示語や接続詞を工夫して使っている。

(2) 指導と評価の計画

教材	時間	指導内容	「書くこと」 教材との関連	評価規準
食感のオノマトペ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の学習内容の説明をし、全時間の学習課題を設定することで見通しを持たせる。 ○ レポートのテーマ（仮）を考えさせ、学習意欲を喚起する。 ○ 本文を通読し内容をおおまかにとらえさせる。 	テーマ	アの① オの①
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各段落のキーワードを探し、筆者の主張をとらえさせ、構成表を作成することで、全体の内容やテーマと視点、構成について理解させる。 	テーマ 視点 構成	エの①
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 形式段落⑤⑥の内容を図表にさせ、文章を図表化させることでより分かりやすくなること、図表が説明の助けとなることを理解させる。 	図表の効果	エの①
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 形式段落⑦⑧の内容をグラフと共に読み取らせながら、事実と意見の読み分けをさせ、意見の根拠が筆者の調査結果(図表)であることを理解させる。 	文末表現 事実と考え 根拠	エの①
	5 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 形式段落⑨の説明の文章について、図表から事実を読み取り、自分の考えを入れて表現させることで、事実と考えの読み分けや、根拠や考えの理由を明確にする必要性を理解させる。 <p>【判断基準の設定を基にした評価】</p>	図表の効果 事実と考え 文末表現 根拠	エの② エの③
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 形式段落⑩⑪の結論部分を読み、図表と筆者の主張の関連性をとらえさせ、自分の考えをまとめさせる。 	構成 まとめ	エの③
一枚レポートを書こう	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「食感のオノマトペ」でレポートを書くために学習したことを想起させ、レポートの書き方・手順を整理させる。 ○ レポートのテーマと視点を決めさせ、材料を集めさせる。 		アの② ウの①
	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図表にする内容を意識してレポートの材料を集めさせ、整理させる。 ○ 図表を示して説明する部分を意識しながら構成を考えさせ、構成表を作成させる。 		ウの①
	9 10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図表を用いて根拠を明確にしながらレポートを書かせる。 		ウの② オの②
	11	<ul style="list-style-type: none"> ○ 説明と図表が対応しているか、図表が説明の助けとなっているか、考えの理由が明確かを確認し、意見交換をしながらさらに読みやすく分かりやすい文章になるよう推敲させる。 <p>【判断基準の設定を基にした評価】</p>		アの② ウの②
	12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 完成したレポートを読み合い、意見を交流させ自分の考えをもたせる。 ○ 単元のまとめをさせる。 		アの②

5 本時の判断基準の設定（5／12）

評価規準	○ 図表に対応した説明の文章を、事実に対する考えを入れて分かりやすく表現することができる。
評価の場面	○ 本時の終末時
評価の対象	○ 生徒が書いた説明の文章の記述 ○ ワークシート
判断の要素	○ 自分の考えや推測 ○ 考えの理由 ○ 文末表現

尺度	判断基準
B	<p>○ オノマトペの使用に男女差がある理由について、考えや推測を述べている。</p> <p>○ 「ぱらぱら」「もったり」「もそもそ」の特徴を述べる等して、自分の考えの理由を述べている。</p> <p>○ 文末を「～と考えられる」「～と推測される」としている。</p> <p>【予想される生徒の表現例】 「ぱらぱら」「もったり」「もそもそ」は「がりがり」「さくさく」「ぐによぐによ」に比べて、その食べ物や食感がはっきりせず微妙な感覚のオノマトペである。その微妙な食感を表現しているのは女性に多いので、女性の方が男性よりも食感に関して敏感であると推測できる。</p>
A	<p>(判断基準Bに加えて)</p> <p>○ 自分の考えを裏付ける理由が、より具体的で説得力がある。</p>

6 本時の実際（5／12）

(1) 教材名 「食感のオノマトペ」

(2) 学習目標

- グラフから読み取れる事実に対して、考えの理由を入れて自分の考えを述べることができる。
- 説明する文章において、自分の考えを根拠を明確にして表現することの重要性を理解し、レポートを書く活動に生かそうとする意欲をもつことができる。

(3) 研究仮説に沿った授業設計の視点

ア 学習課題の工夫

- (ア) 判断基準Bに準じて「事実」と「考え」というキーワードを入れ、生徒自身が具体的な到達点をイメージしやすいよう、より具体的な学習課題を設定する。
- (イ) 単元全体のつながりを示し、系統的な言語活動であることを意識させる。

イ 発問の工夫

判断基準Bの各項目に準じて生徒の思考を促す発問をしていく。

(4) 授業の展開

発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
導入	10分	一斉	1 グラフを見て気づいたことを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に書かせた生徒の考えを示しながらグラフに表れている事実を整理する。 ・ グラフがどの形式段落と対応しているか確認する。 ・ 形式段落⑦⑧と比べて、⑨は事実のみで考えが書かれていないことに気づかせる。 	<p>視点イ 判断の要素の「考え」について思考を促す</p> <p>視点ア-(7) 「事実」と「考え」というキーワードを入れ具体的な学習課題を設定する。</p>
			2 教科書の形式段落⑨を読む。		
展開	10分	個班 一斉	3 本時の学習課題を確認し、学習過程を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女差のないオノマトペに比べて、男女差のあるオノマトペが女性の方が使用が多いのはなぜかを考え、自分の考えをまとめる学習であることを押さえさせる。 ・ 「考えの理由」をきちんと入れて、自分の考えを述べることの重要性を伝える。 	<p>視点イ 判断の要素の「考えの理由」の必要性について思考を促す。</p> <p>視点ア-(イ) 単元のつながりを示し学習意欲を喚起する。</p>
			4 男女差のない3つのオノマトペと、女性の方がよく使う3つのオノマトペについてその違いを考える。		
			<p>グラフから読み取れる「事実」から自分の「考え」を述べ、筆者になったつもりで説得力のある説明をしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習課題を確認し関連性を意識させ、本時の学習がレポート学習のどこに生かせるのか確認させる。 	
			5 話し合っ分かったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えをワークシートに書かせる。 	
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つずつ見て、それぞれ共通して言えることは何だろう？ 	
				<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれのオノマトペの食感のイメージや具体的な食べ物について意見を出し合い、女性の方がよく使う3つに共通する特徴を見つけさせる 	
				<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれのオノマトペの辞書上の意味も提示し、男女差のある3つのオノマトペが微妙で繊細な感覚のオノマトペであることを認識させる。 	

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点	
展 開	10分	個 班	6 男女差のある3つのオノマトペ（ばらばら・もったり・もそもそ）が、女性の方がよく使う理由について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分の考えを書かせた後、話し合いに入らせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">視点イ</div> 判断の要素の「考え」について思考を促す	
		一 斉	7 話し合ったことを発表させ、ここまで考えたことを教師と共に整理する。	<ul style="list-style-type: none"> これまで考えたことを板書で整理し、「考え」として記述していく方法を説明する。 事実と意見を区別する文末表現について確認する。 		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">視点イ</div> 判断の要素の「文末表現」について思考を促す。
	10分	個	8 グラフに対応する説明の文章を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導をしながら、なかなか書き出せない生徒には「書けるよガイド」を渡す。 早く書けた生徒には、考えの理由をより具体的に書くよう指示する。 		
	8分	一 斉	9 書いた文章をつかってグラフの結果についての説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">判断基準Bの生徒の表現例参照</div>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の書いた文章を使って「事実」「考えの理由」「考え」を示し、根拠が明確な文章は分かりやすく説得力があることを確認させる。 		
終 末	2分	一 斉	10 本時の学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">説明する文章において、根拠を明確にして考えを述べることはとても重要である。</div> 11 自己評価をし、次時の学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> レポートを書く上で大切なことは何だと思うか、本時の学習で気づいたことを述べさせる。 本時の学習をレポート作成に生かすことを確認させる。 		

(5) 検証の方法

ア 学習課題の工夫

- (ア) 「事実」と「考え」というキーワードを生徒の発言から導きだし、学習課題の理解と課題解決への意欲がみられるか、生徒の観察により確認する。
- (イ) 導入の学習課題設定を通して、生徒が前時までの学習とのつながりやどのような目的の学習活動なのかを理解しているか、生徒の観察とワークシートの記述により確認する。

イ 発問の工夫

発問によって生徒の思考が促され、その結果判断基準Bの各項目を表現できているか、生徒の観察と記述から確認する。

根拠はグラフ

意見には考えの理由（理由）が必要 →辞書上の意味から推測した食べ物

案② なぜこのオノマトペは女性の方がよく使うのか？を考えるのではなく

「オノマトペの使用で，男女間で違いがあるということはどういうことを表しているのか」

「女性にオノマトペの使用が多いのはなぜか？」

筆者は何が言いたくてこの二つのグラフを載せたのか？

- ・ 世代ごとの割合グラフ…
- ・ 男女の割合グラフ …

指導案作成にあたって

レポートを「書くこと」で身につけさせたい力

指導事項 イ 集めた材料を分類・整理して文章の構成を考える。

ウ 調べたことについて根拠を明確にした文章を書く。→図表を用いる

説明的文章を「読むこと」で身につけさせたい力

指導事項 イ 事実と意見の読み分け。→グラフ（図表）を手がかりに
意見の根拠

エ 文章の構成や展開，表現の特徴について，自分の考えをもつこと。

言語活動例

書くこと イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。

読むこと イ 文章と図表などとの関連を考えながら，説明や記録の文章を読むこと。

→ 関連させて指導することが効果的

ワークシート